



繪太閤記  
巻の十

西垣文庫  
文庫10  
6745  
5



文庫10  
6745  
5

明 智 日向守 光秀  
 清和源氏攝津守 頼光七代  
 伊賀守 光基の嫡男 土岐  
 美濃守の五代 土岐伯耆守  
 頼清の次男 下野守 頼通  
 美濃國明智の城に居住を  
 依り氏とて 頼義八代の孫  
 下野守 頼綱の子 初十兵衛と号す  
 信長に仕へて 立身し 丹州龜山  
 江州坂本兩城の城主 五十余万石と  
 領を後信長と討て 終任村軍不任  
 たる程に 秀吉と山崎不戦し  
 小栗畑のつゆとさるる

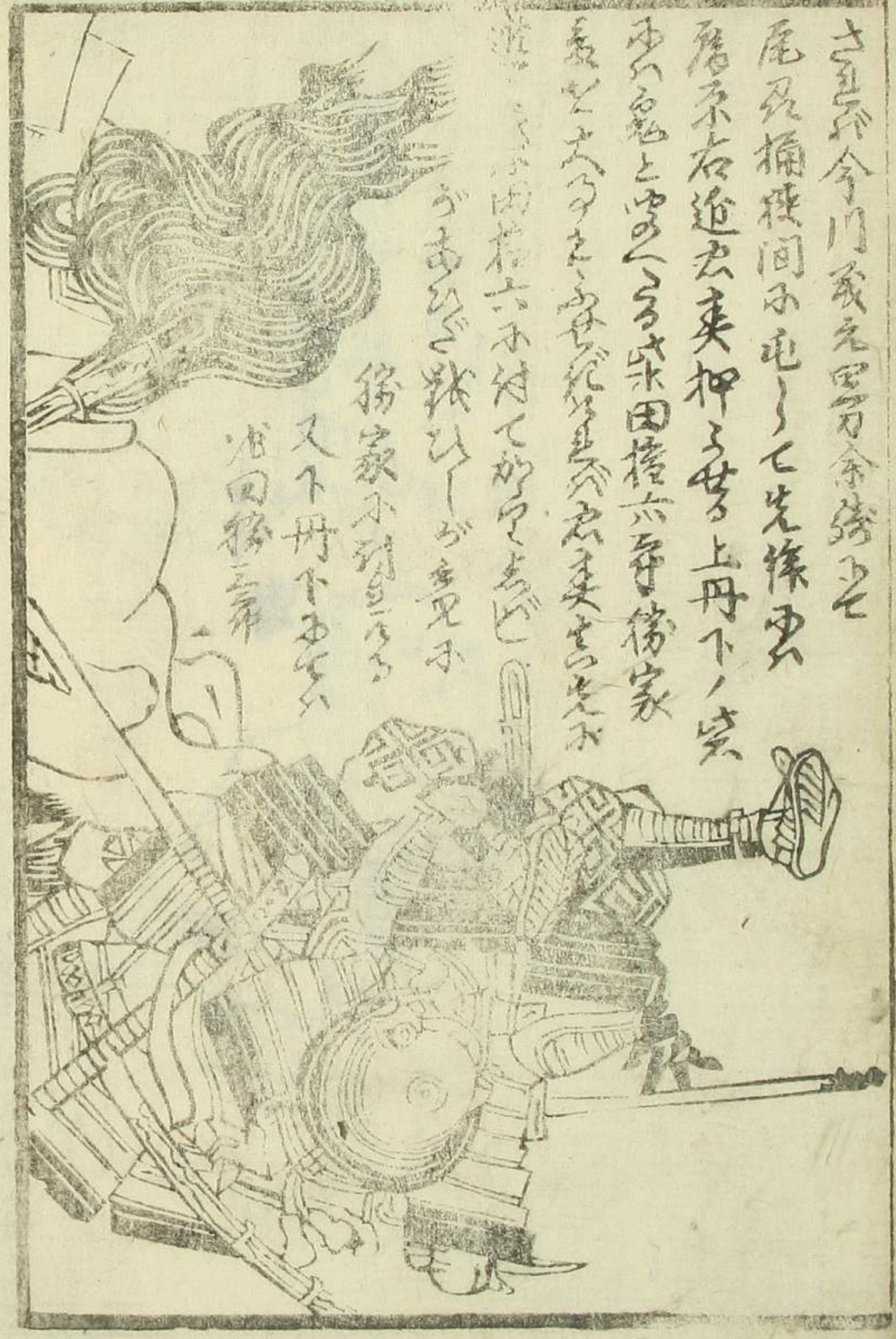


西垣文庫



柴田勝家

佐藤今川の支物カ  
 其世に葛山備中守と  
 河原乃これありて今川勢政あり  
 本陣小ちいんあねが我を築か勢をうりて  
 以ては時佐長ハ後吉年の計畧也七築かをうりて  
 生人より佐之るより命毛利河内守毛利新田守



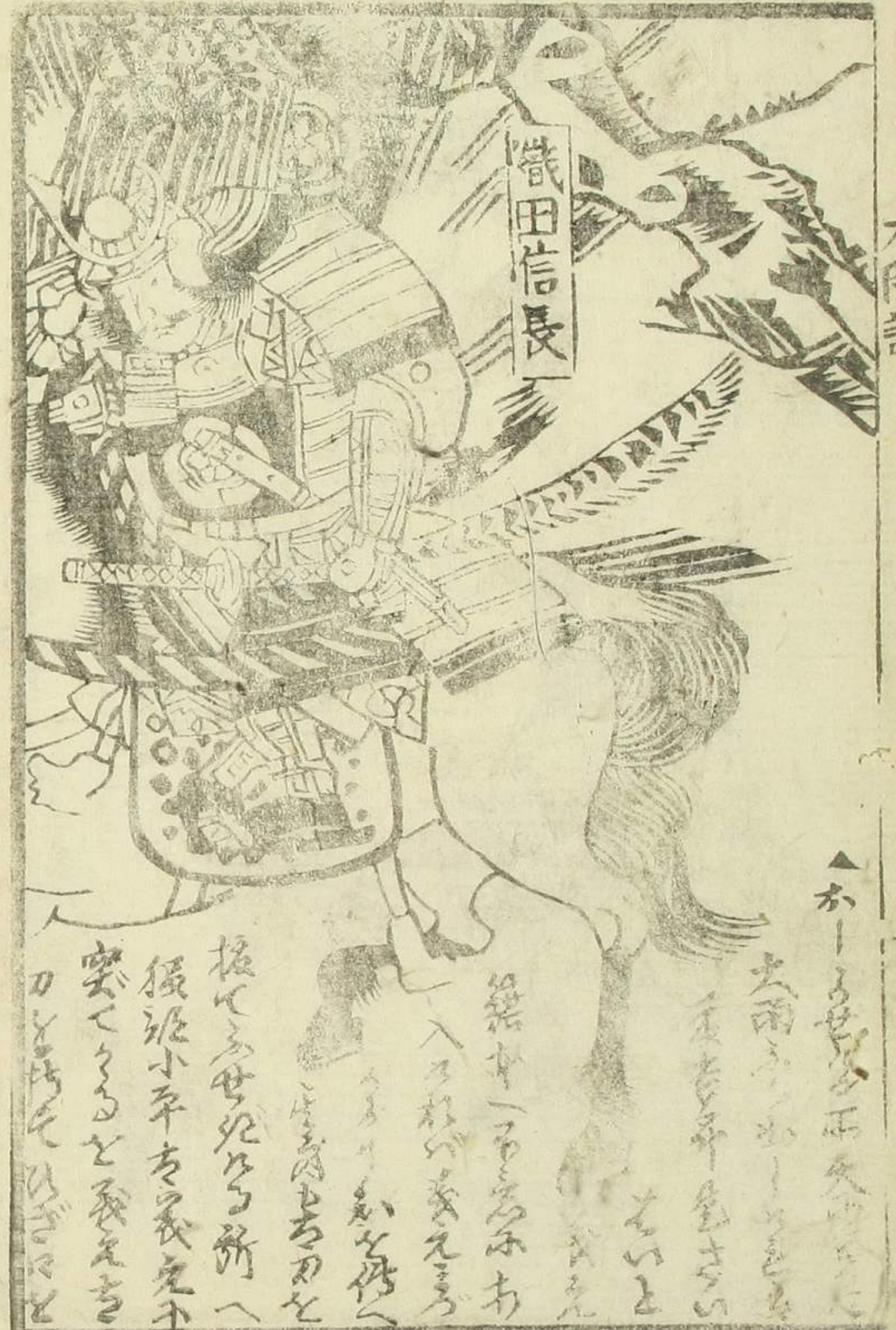
七五今川我を四万餘騎とて  
 尾及桶狭間小屯して先鋒也  
 居る右進去来押さず上丹下ノ  
 少の志とゆふら柴田格六存務家  
 長と大つと存務格六存務家  
 道... 格六存務格六存務家

務家不到...  
 又下丹下...  
 河内格六存



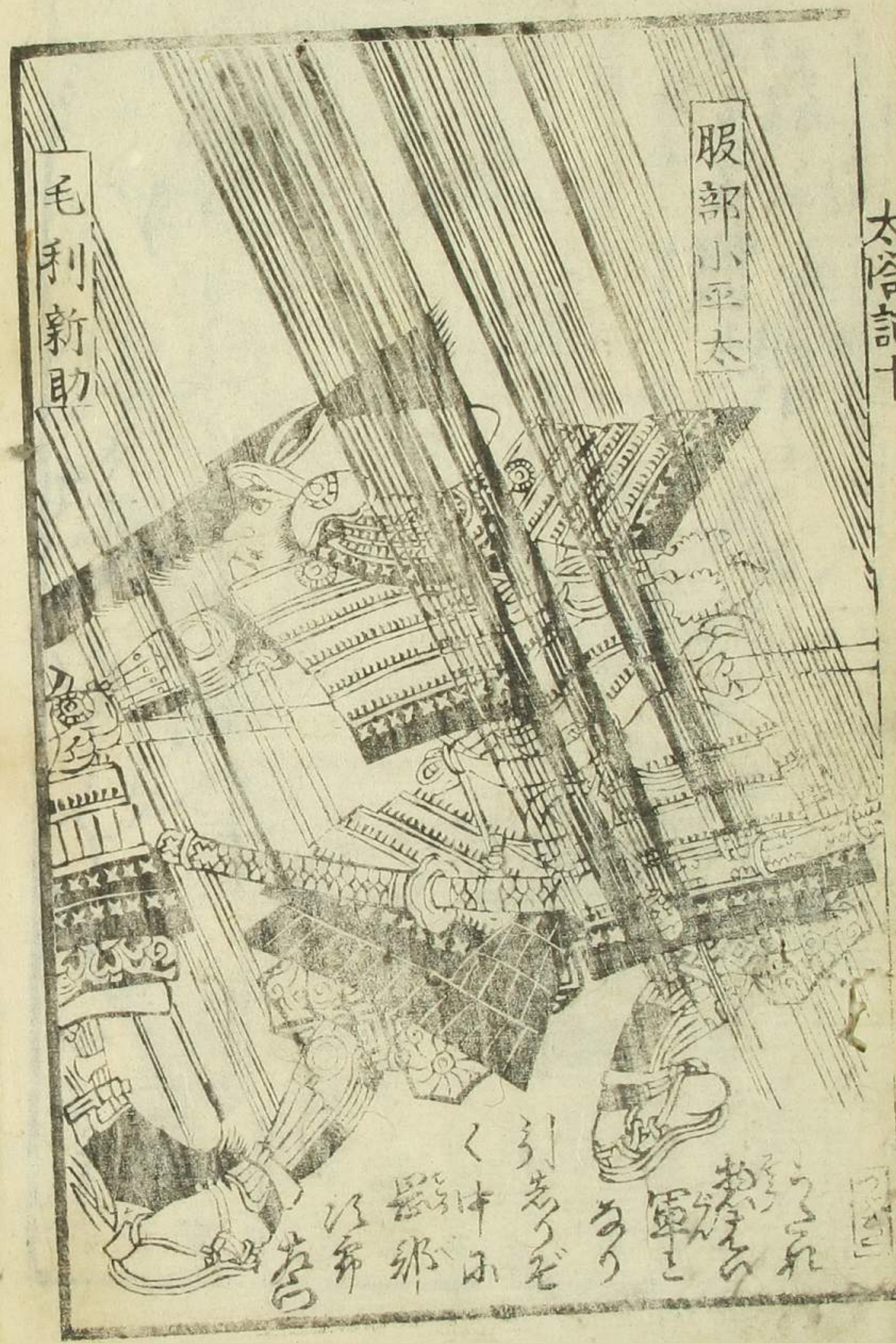
小平本下  
 友吉舟をまどめ  
 付まふひ熱田  
 きかおとくち  
 奇瑞とくち  
 あり義元の舟陣

切付も毛利  
 今川の先手  
 これをき  
 助  
 今川  
 出陣



織田信長

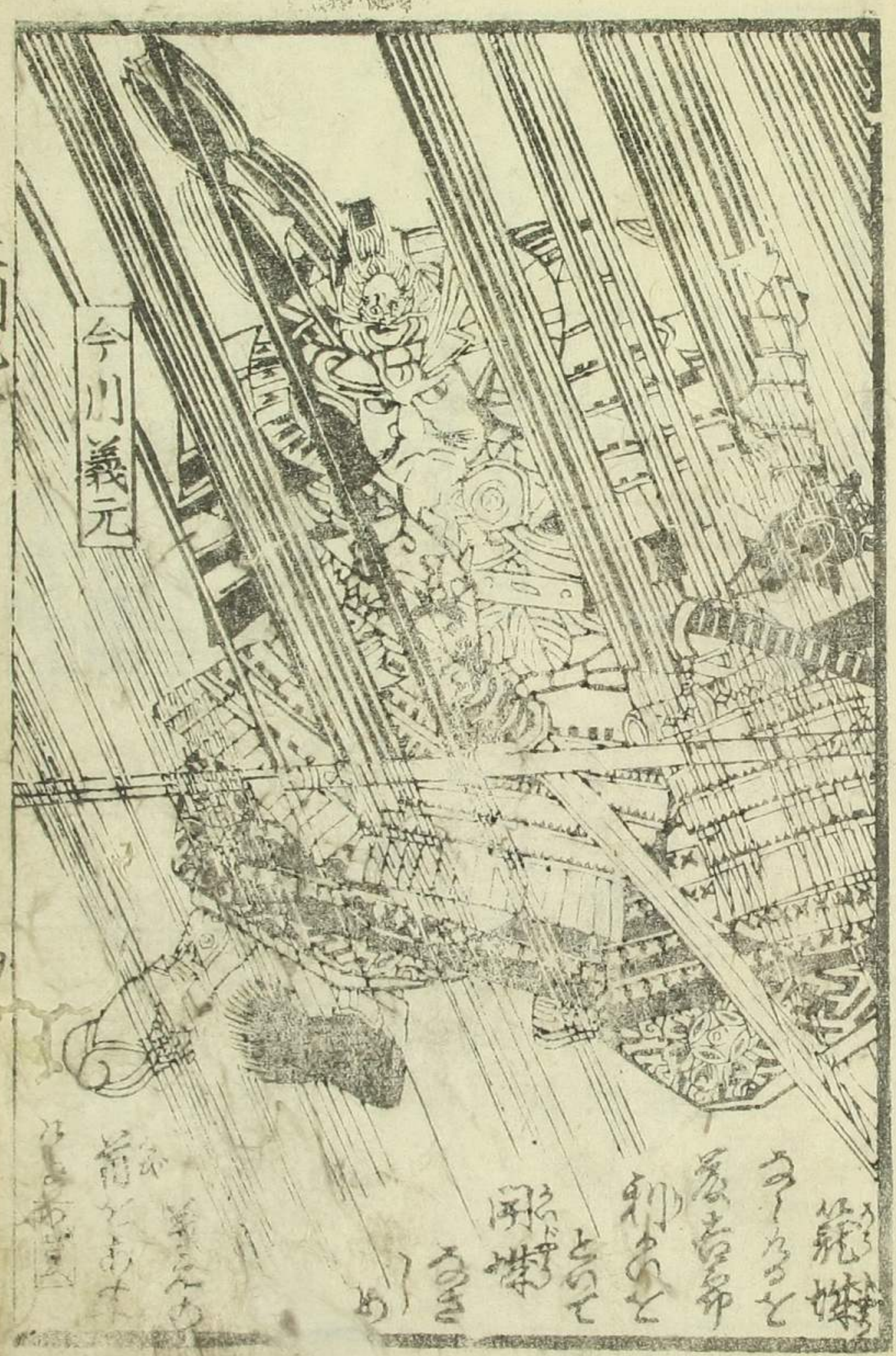
大陣  
 今川  
 今川



服部小平太

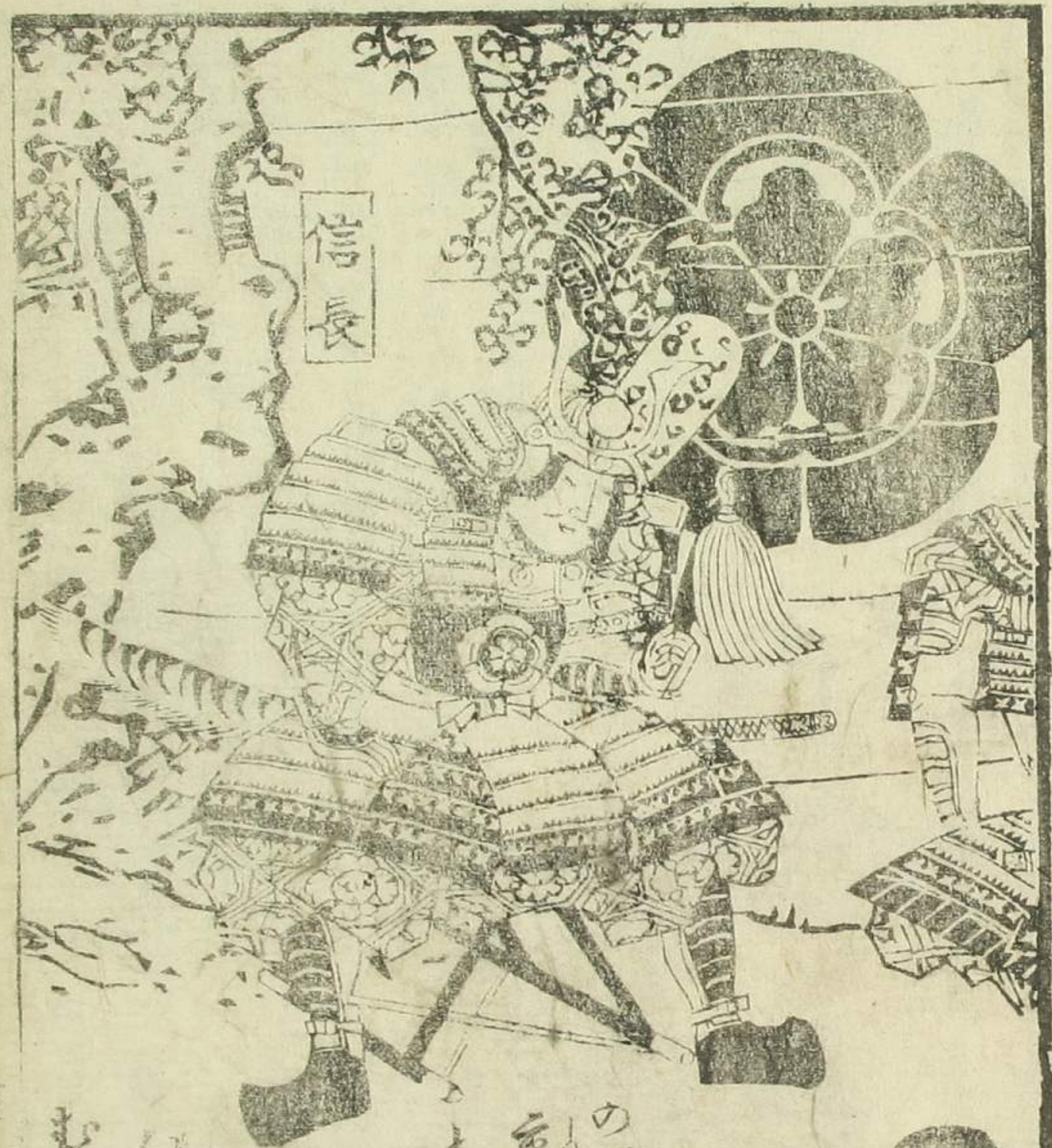
毛利新助

つれ  
おのれ  
軍と  
あり  
引きか  
く伸し  
長邪  
以奔  
た



今川義元

籠城  
とて  
同  
は



信長

の軍師竹中半蔵  
 重信は信長を助けた  
 事あると云ふ  
 信長は竹中半蔵の  
 大將と云ふ  
 半蔵の功は  
 人の長きこと  
 むねはあつた



木下藤吉

別田大十代

別田大十代  
 信長の軍師  
 功の長きこと  
 むねはあつた  
 信長は別田大十代  
 の大將と云ふ  
 大十代の功は  
 人の長きこと  
 むねはあつた

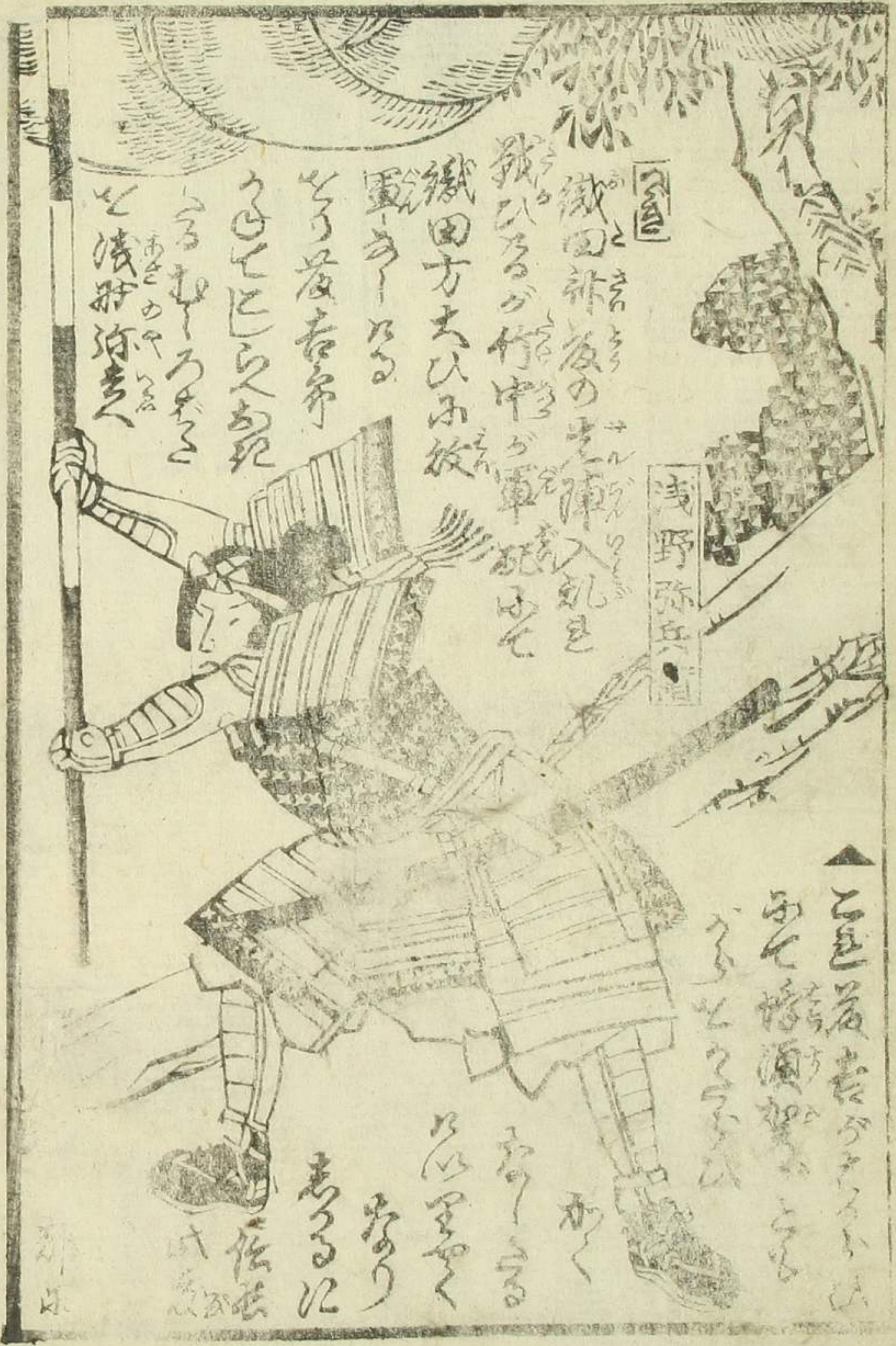
信長の軍師  
 功の長きこと  
 むねはあつた

信長の軍師  
 功の長きこと  
 むねはあつた

おのれ世小ききりぬり  
 らあふ世は合巻に  
 指ひついで山の音か  
 あらうる格物あはれ  
 綿葉の方へあてて  
 足へはは英波勢と  
 本陣を大みまはり  
 る是をなほ長きひ  
 のまを山へ攻めんと  
 後を舟あたらはる  
 の計畧あり歌あは  
 さま味方一人も生  
 つまめてあはれ川



敵地を奪はんと  
 敵の陣を破る  
 敵の軍を打ち  
 敵の首を斬る  
 敵の旗を奪ひ  
 敵の馬を奪ひ  
 敵の糧を奪ひ  
 敵の陣を破る  
 敵の軍を打ち  
 敵の首を斬る  
 敵の旗を奪ひ  
 敵の馬を奪ひ  
 敵の糧を奪ひ



織田方の兵隊  
 戦場に入る  
 織田方の兵隊  
 戦場に入る  
 織田方の兵隊  
 戦場に入る

織田方の兵隊  
 戦場に入る  
 織田方の兵隊  
 戦場に入る  
 織田方の兵隊  
 戦場に入る

三好長慶



三好長慶

足利義昭

足利義昭

あつる



築死て是のちのち

あつる

あつる

人撰

信長



信長

信長

信長

信長

信長

信長

信長

信長

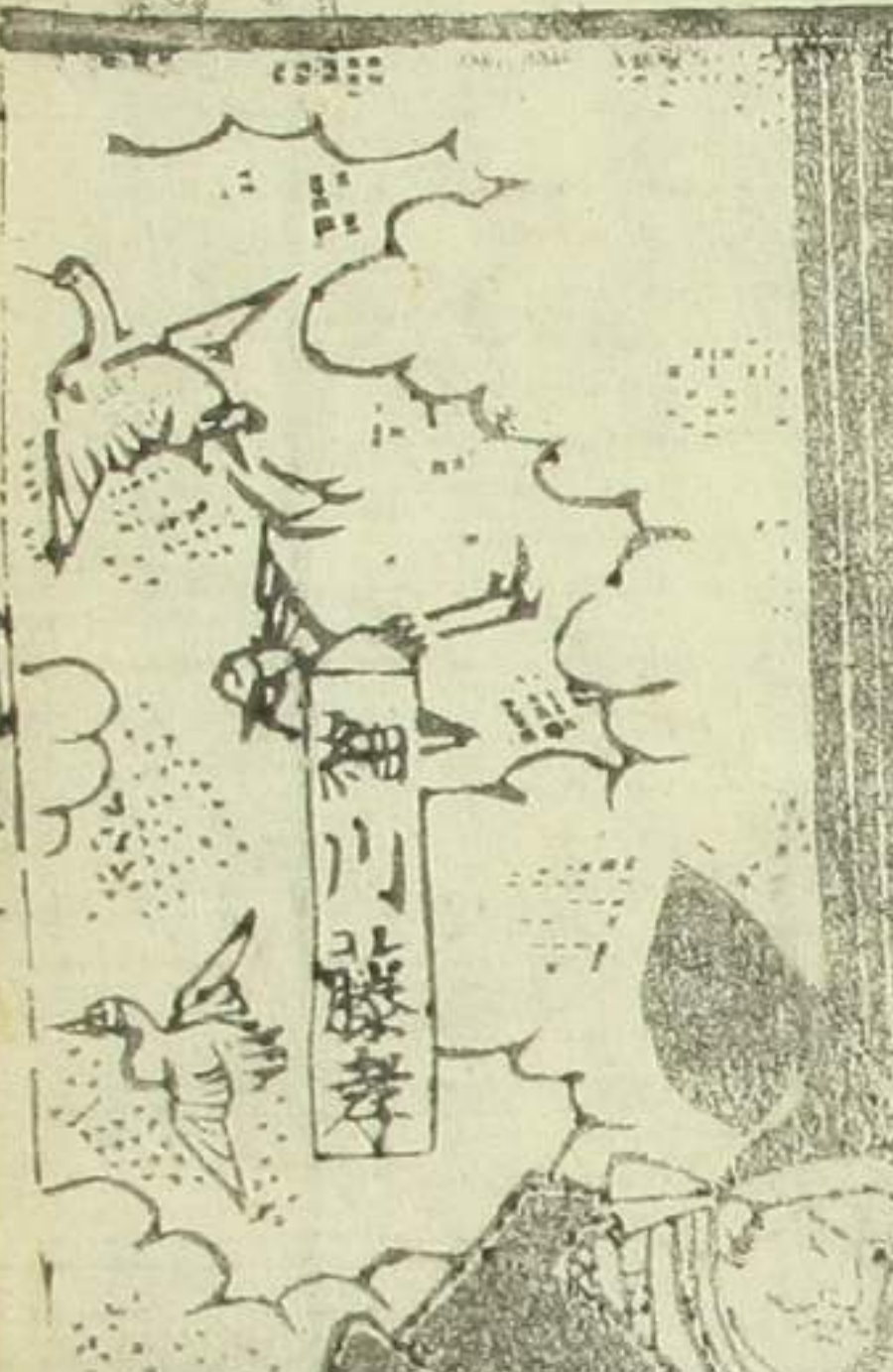
信長

信長



信長

信長

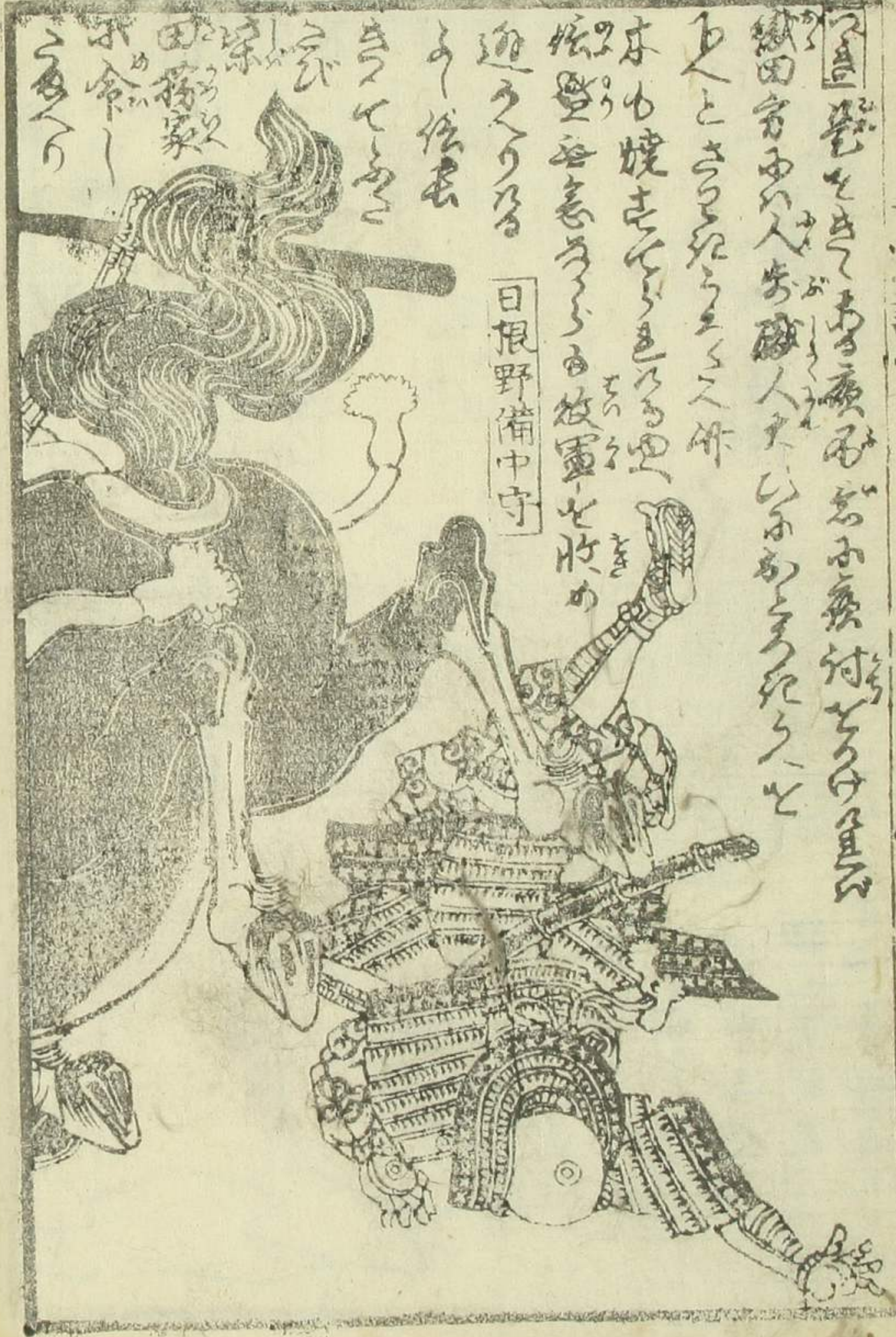


信長

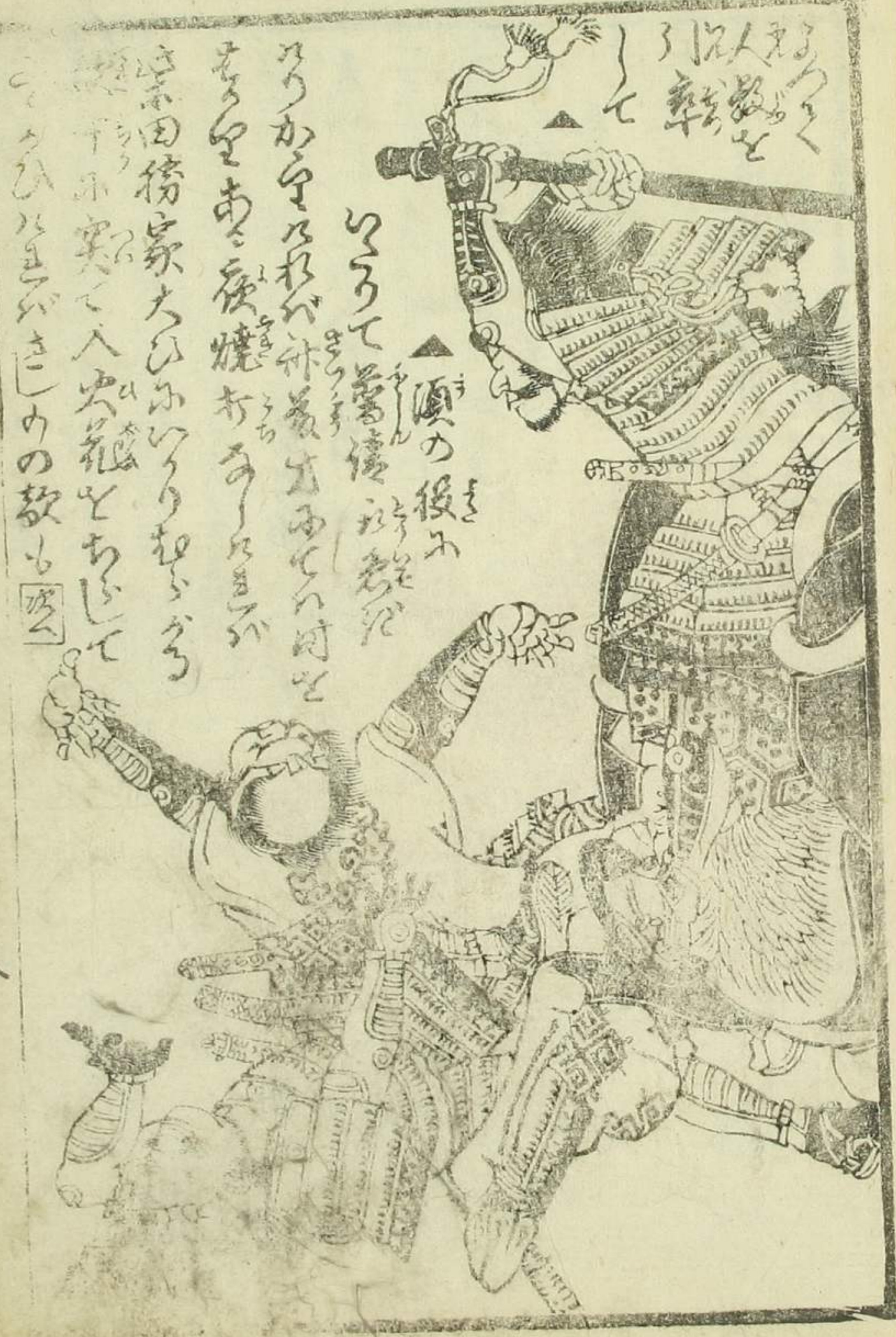


大徳記に云くあるは、  
織田方の入兵、  
人々の死を免れんと  
しんとさすは、  
本も焼きたるは、  
火を容るるは、  
故軍を收め  
迎うるに

日根野備中守

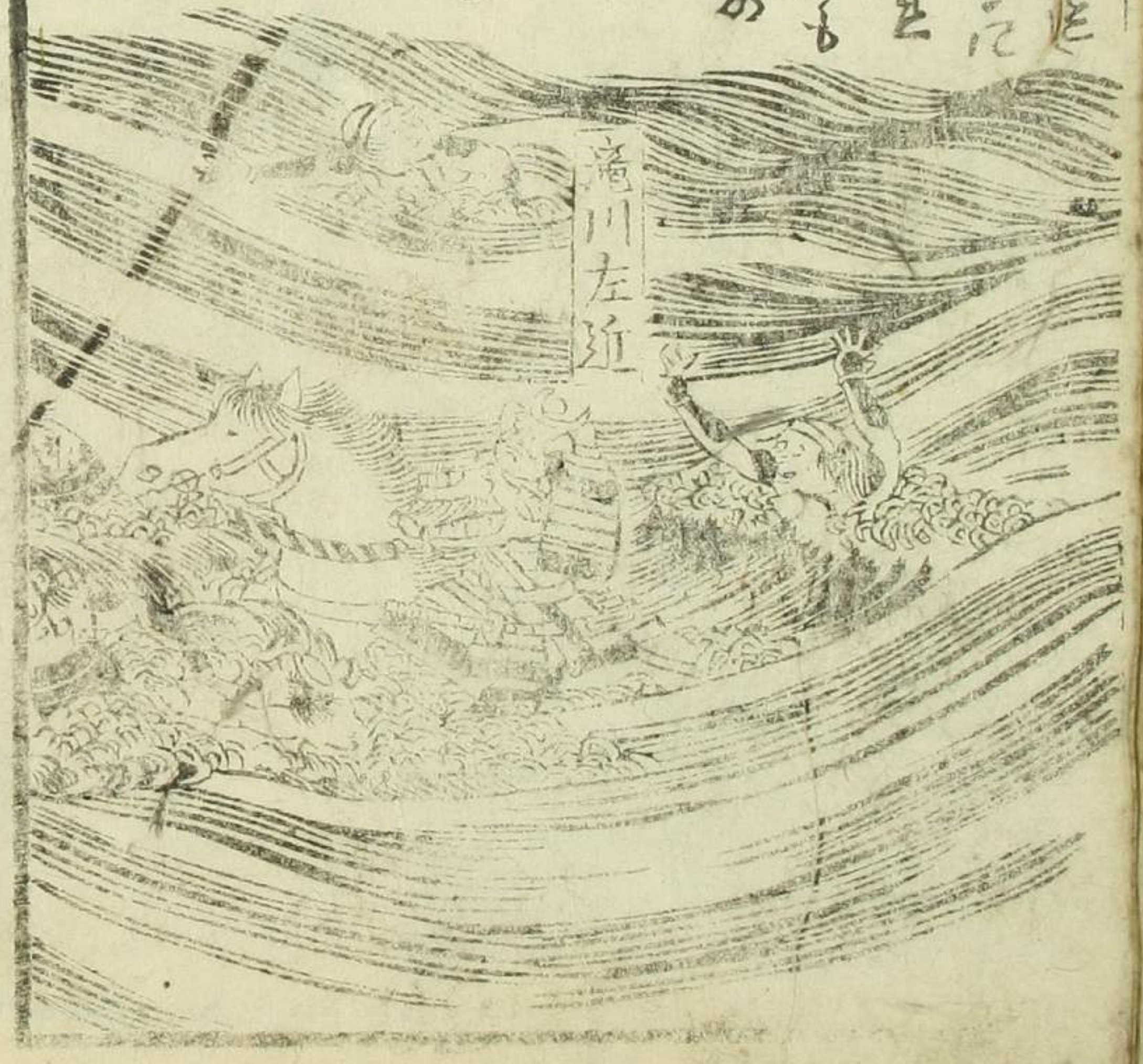


田務家  
水命  
まろり



大徳記に云くあるは、  
織田方の入兵、  
人々の死を免れんと  
しんとさすは、  
本も焼きたるは、  
火を容るるは、  
故軍を收め  
迎うるに

一 徳家小実五郎且彦  
 考ふまゝくつて西より来るに  
 故のこゝに小井本とやうな  
 りるゆへに徳志あつちやうも  
 柴田の故陣とすうとあ  
 尾州へもくくする  
 こゝにふりて信長ハ  
 本下着る者多し余ハ  
 あふら若者多しわく  
 あつちやうもくつてさう  
 徳源が小六の比咩  
 六が又福田丸を  
 ホとくつてい頃の徳ハ

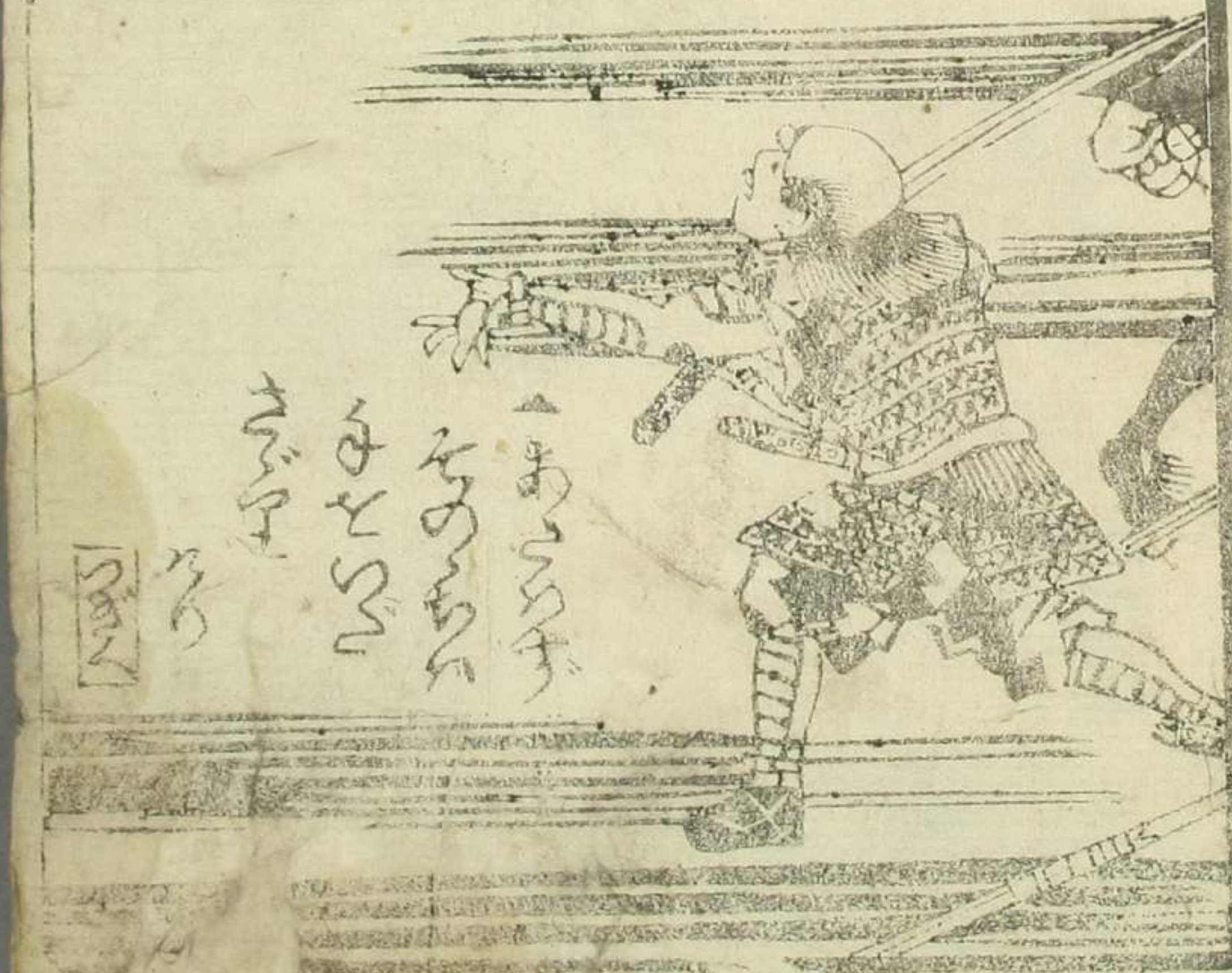


ころといはくつて徳志  
 徳志と云つてなまゝくつて  
 紙中より一巻のうらわ  
 博麻知床あふら  
 丹波丸徳志あふら  
 徳志と云つて徳志と云つて  
 一巻のうらわは徳志と云つて  
 大ひやあつちやうなり  
 考ふまゝくつて西より来るに  
 故のこゝに小井本とやうな  
 りるゆへに徳志あつちやうも  
 柴田の故陣とすうとあ  
 尾州へもくくする  
 こゝにふりて信長ハ  
 本下着る者多し余ハ  
 あふら若者多しわく  
 あつちやうもくつてさう  
 徳源が小六の比咩  
 六が又福田丸を  
 ホとくつてい頃の徳ハ



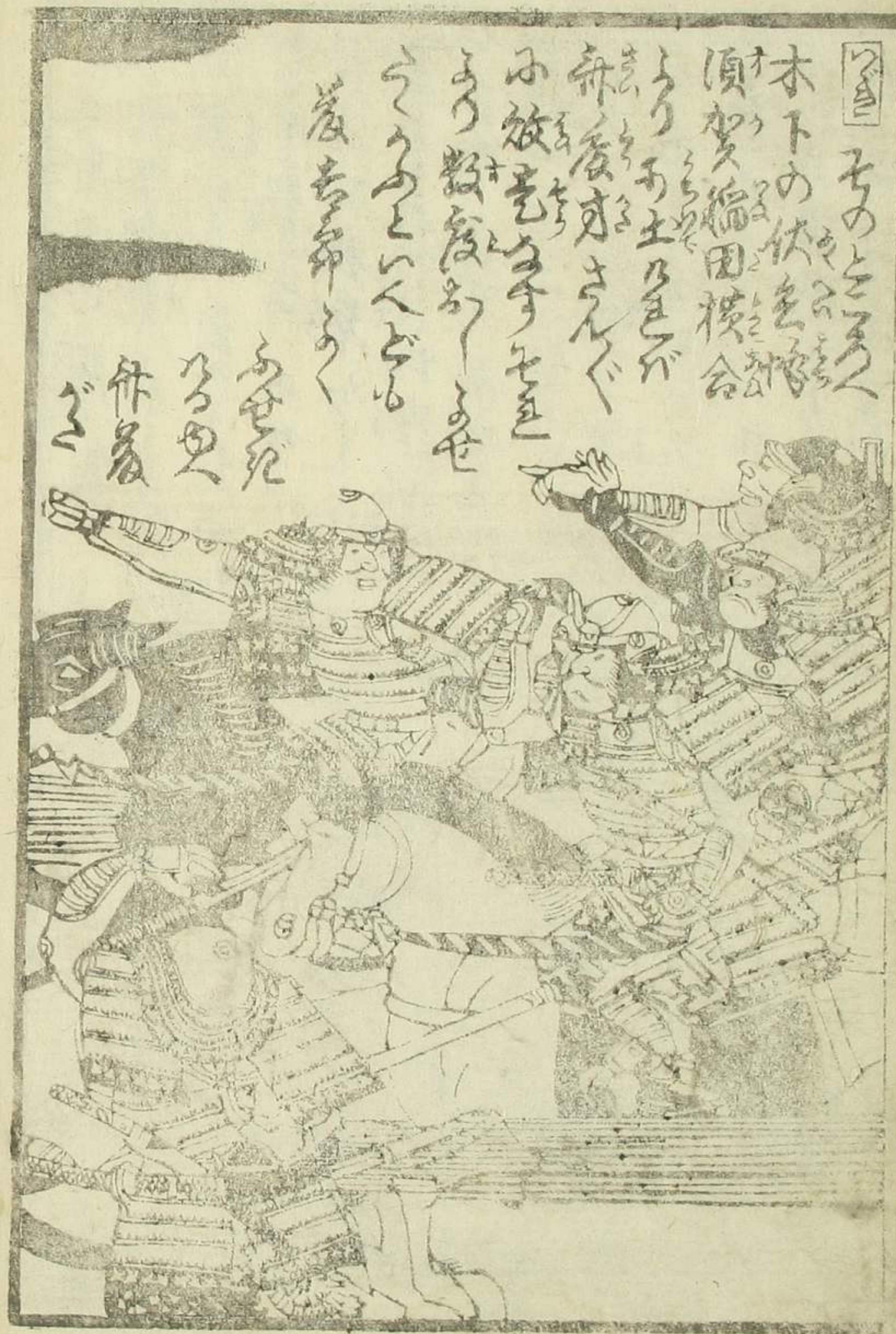


城と  
あま  
ち



あま  
そのあま  
ちと  
ま

ついで



ついで  
そのあま  
木下の伏見  
須賀橋田橋合  
よりあまは  
赤坂のあま  
小坂のあま  
より坂のあま  
ついでといふ  
あまは

あま  
のあ  
ま

〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆  
 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆  
 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆  
 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆  
 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆



二村宮

南宮

早稲田大学図書館

011688985783